

として世を審判するときは己に至らざるなり若し我憐れは皆お審判せらるる時ハ神ハ福音ハ從たる者たる其結
 局ハ如何ぞや、もし義者僅じて救へるゝを得ハ神を敬へざる者と罪人ハ何處お立んや、是故お神ハ彼等
 循ひて昔お遇ひのハ善を行ひて其靈魂を信するべき造物者に託すべし
 キリスト下の苦を親しく見て諺をなす且斷れんとする樂ありてこそを得る者なる長老たる我れなんぢ
 らの中おて我れ同く長老たる者お勸む、爾曹の中おある神の羊だ群を收めこれを牧司せざるお止を得ずして
 爲す毋てなし利を貪るために爲す樂みて爲べし又なんぢら託せられたる者お主と爲べからず羊の群れ
 式と爲べしなんぢら牧者の長の斷れん時お變ることなき榮光冠冕を得ん、また幼者お勸む爾曹長老に
 服し且互にみな相服ひて謙遜を衣よ夫神ハ驕傲者を拒きて謙遜者に恩を與給ふなり、是故お爾曹神の大
 能の手下に己を卑すべし期至らば彼なんぢら高せん、爾曹の憂慮ところを惡神に託ぬべし蓋かれ
 爾曹を顧み給へばなり、○謹慎儼然なんぢらの敵なる惡魔吼る獅子の如く徧行て吞へべき者を尋ぬ、なん
 ぢら信仰を堅くして之を御し蓋なんぢら世にある兄弟の同く此苦を受けるを知べなり、諸の恩恵を予ふる神
 すなんぢら爾曹をして嘗て苦を受ける後キリストイエスに於ける窮なき榮に入まめんとて爾曹を招きし神爾曹
 を全うし堅くし強きて基の上に置給ふべし、願くハ榮光と權力世々神お在アミン、○われ意ふわ
 ンハ忠信なる兄弟なり我片の言の書を彼に記ぬ爾曹に贈て勸をなし且なんぢらが立どころの恩ハ乃ち
 神の眞恩なることを證せり、バビロンお在所の爾曹と共に選きたる教會なんぢらに安を問ふ九吾子、
 コも爾曹に安を問ひ、なんぢら愛の接吻を以て互に安をよへ、願くハキリストイエスに在なんぢら衆に平
 康おらん事をアミン、

二 一三三
 三 一三三
 四 一三三
 五 一三三
 六 一三三
 七 一三三
 八 一三三
 九 一三三
 一〇 一三三
 一一 一三三
 一二 一三三
 一三 一三三
 一四 一三三
 一五 一三三
 一六 一三三
 一七 一三三
 一八 一三三
 一九 一三三
 二〇 一三三
 二一 一三三
 二二 一三三
 二三 一三三
 二四 一三三
 二五 一三三
 二六 一三三
 二七 一三三
 二八 一三三
 二九 一三三
 三〇 一三三
 三一 一三三
 三二 一三三
 三三 一三三
 三四 一三三
 三五 一三三
 三六 一三三
 三七 一三三
 三八 一三三
 三九 一三三
 四〇 一三三
 四一 一三三
 四二 一三三
 四三 一三三
 四四 一三三
 四五 一三三
 四六 一三三
 四七 一三三
 四八 一三三
 四九 一三三
 五〇 一三三
 五一 一三三
 五二 一三三
 五三 一三三
 五四 一三三
 五五 一三三
 五六 一三三
 五七 一三三
 五八 一三三
 五九 一三三
 六〇 一三三
 六一 一三三
 六二 一三三
 六三 一三三
 六四 一三三
 六五 一三三
 六六 一三三
 六七 一三三
 六八 一三三
 六九 一三三
 七〇 一三三
 七一 一三三
 七二 一三三
 七三 一三三
 七四 一三三
 七五 一三三
 七六 一三三
 七七 一三三
 七八 一三三
 七九 一三三
 八〇 一三三
 八一 一三三
 八二 一三三
 八三 一三三
 八四 一三三
 八五 一三三
 八六 一三三
 八七 一三三
 八八 一三三
 八九 一三三
 九〇 一三三
 九一 一三三
 九二 一三三
 九三 一三三
 九四 一三三
 九五 一三三
 九六 一三三
 九七 一三三
 九八 一三三
 九九 一三三
 一〇〇 一三三

新約全書彼得後書

一 エキクリストの僕たるシモンペテロ我々の神と救主イエスキリストの義も由て我々の
 二 義も由て我々の神と救主イエスキリストの義も由て我々の
 三 義も由て我々の神と救主イエスキリストの義も由て我々の
 四 義も由て我々の神と救主イエスキリストの義も由て我々の
 五 義も由て我々の神と救主イエスキリストの義も由て我々の
 六 義も由て我々の神と救主イエスキリストの義も由て我々の
 七 義も由て我々の神と救主イエスキリストの義も由て我々の
 八 義も由て我々の神と救主イエスキリストの義も由て我々の
 九 義も由て我々の神と救主イエスキリストの義も由て我々の
 十 義も由て我々の神と救主イエスキリストの義も由て我々の
 十一 義も由て我々の神と救主イエスキリストの義も由て我々の
 十二 義も由て我々の神と救主イエスキリストの義も由て我々の
 十三 義も由て我々の神と救主イエスキリストの義も由て我々の
 十四 義も由て我々の神と救主イエスキリストの義も由て我々の
 十五 義も由て我々の神と救主イエスキリストの義も由て我々の
 十六 義も由て我々の神と救主イエスキリストの義も由て我々の
 十七 義も由て我々の神と救主イエスキリストの義も由て我々の

一 彼得後書第一章
 二 彼得後書第二章
 三 彼得後書第三章
 四 彼得後書第四章
 五 彼得後書第五章
 六 彼得後書第六章
 七 彼得後書第七章
 八 彼得後書第八章
 九 彼得後書第九章
 十 彼得後書第十章
 十一 彼得後書第十一章
 十二 彼得後書第十二章
 十三 彼得後書第十三章
 十四 彼得後書第十四章
 十五 彼得後書第十五章
 十六 彼得後書第十六章
 十七 彼得後書第十七章

なる奇蹟を用ざりき我々の親しく其大なる威光を見し者なり 至大なる榮光の中より聲ありて彼を呼て

憶起さしめんことを勸われら前に爾曹も我々の主イエスキリストの能力と其顯れ給ふべきを告るも巧

る如く我々が幕屋を離るゝことの近を知たなり 我また爾曹をして我の世を去ん後にも常此等の事を

責に此事を憶起させて爾曹を勵すに當然の如く蓋われらの主イエスキリストの我を示し給へ

既か受たる眞道に堅けれど何ならんからに此事を憶起させんとして慮らざる也 我この幕屋に居おひだ爾

救主イエスキリストの永遠國お人の恩を豐く予へ給ふべし 是故か恒わ我かんなら此等の事を知かつ

せよ若前に告たる事どもを行はば爾曹いつやでも驕くこと莫らん 此の如く神かんならに我々の主たる

と能く自ら我々の賢き罪を潔られし事を忘るゝ也 是故か兄弟よ勤て爾曹の召れし事と選れし事とを堅固

キリストを讀むこと怠ることなく又實を結ぶること無む至らん 此等のものくなき者ハ言ふなり遠く見て

睦を加へ兄弟の睦を愛を加ふべし 此等のもの若ならん其の衷お在て彌増さきハ爾曹われらの主イエス

信仰も徳を加へ徳も智識を加へ 智識も擲節を加へ擲節も忍耐を加へ忍耐も敬虔を加へ 敬虔も兄弟の

ハ爾曹をして此約束に由て世おある所の徳の取壊を欺かき神の性質を有しめん爲なり 是故か爾曹勤て

て我々の召し給ひし者を讀むに由てなり また神の愛と徳も因て至大なる實き約束を我々に手へ給へり此

本業の増んことを 神の能力も備ひて生命と敬虔も係る凡のものを我々に賜へり是われら樂と徳を以

て 我々の増んことを 神の能力も備ひて生命と敬虔も係る凡のものを我々に賜へり是われら樂と徳を以

て 我々の増んことを 神の能力も備ひて生命と敬虔も係る凡のものを我々に賜へり是われら樂と徳を以

て 我々の増んことを 神の能力も備ひて生命と敬虔も係る凡のものを我々に賜へり是われら樂と徳を以

て 我々の増んことを 神の能力も備ひて生命と敬虔も係る凡のものを我々に賜へり是われら樂と徳を以

て 我々の増んことを 神の能力も備ひて生命と敬虔も係る凡のものを我々に賜へり是われら樂と徳を以

て 我々の増んことを 神の能力も備ひて生命と敬虔も係る凡のものを我々に賜へり是われら樂と徳を以

て 我々の増んことを 神の能力も備ひて生命と敬虔も係る凡のものを我々に賜へり是われら樂と徳を以

て 我々の増んことを 神の能力も備ひて生命と敬虔も係る凡のものを我々に賜へり是われら樂と徳を以

て 我々の増んことを 神の能力も備ひて生命と敬虔も係る凡のものを我々に賜へり是われら樂と徳を以

て 我々の増んことを 神の能力も備ひて生命と敬虔も係る凡のものを我々に賜へり是われら樂と徳を以

て 我々の増んことを 神の能力も備ひて生命と敬虔も係る凡のものを我々に賜へり是われら樂と徳を以

て 我々の増んことを 神の能力も備ひて生命と敬虔も係る凡のものを我々に賜へり是われら樂と徳を以

て 我々の増んことを 神の能力も備ひて生命と敬虔も係る凡のものを我々に賜へり是われら樂と徳を以

て 我々の増んことを 神の能力も備ひて生命と敬虔も係る凡のものを我々に賜へり是われら樂と徳を以

ハ我心小適ふ我が愛子なりと曰ふ此時かれハ神なる父より尊と譽を蒙たり われら彼と偕ハ聖山にお在し

暗この天より出し聲を聞り 殊ハ預言者の確言れらわ在ての言ハ暗處に輝る燈の如きものなり夜の明

るまで明星の爾曹の心の中お出るまで之を顧みバ 善き事ハ聖書の諸の預言ハ預言者おの

れの意を以て示せるに非ざるを知んてと也 二ハ預言ハ善より人意小由て出しに非ず神に屬する聖人聖

靈に感じて語りし者おられた也

ハ昔し民の中お僞の預言者ありき其ごとく爾曹の中お僞の師いでん彼等ハ瀆亡に至る異端を傳

へ且おのれを贖ふ主を主とせすとして速かなる瀆亡を自ら取べし また多の人かれらの好色に效はん眞道

これお由て謗論を受ん かれら貪婪心に由て造言を設け爾曹より利を取んてす彼等の刑罰ハ昔より定め

れを違からし彼等の瀆亡ハ罪す 神に罪を犯し天倒を答さず之を地獄に投られ之を幽穴に置これ

を禁錮彼等をして審判の時を待しめ給へり また古世を答さず洪水を以て神を敬えざる世を滅ぼし只義

道を傳ふるノアの一家人を救へり 又ツトムとイモラの邑を滅さんど定め之を發て旅となし後の神を

敬えざる者の鹽どかし だが義きトト即ち惡者の淫亂の行を恒に愛しし者を救へり この義人かれらの

中にをり日々その不法の行を見解して己の義き心を傷たり 此の如く神を敬ふ者を患難より救ひ不義な

る者を審判の日まで守りて之を罰し 別て汚たる情慾に徇ひ肉の慾を行ひ主たる者を戮する者を罰す

る事を知給ふなり此輩ハ臍木く自放なる者にして尊者を誹ることとを畏ざるなり 天使ハ彼等に愈し大

なる權威と能力を有て主の前お此尊者を誹て訴ることとを爲す 彼等ハ執れて殺さるゝ爲に生れたる無知

識の如し知ざる所の事を誹り其邪曲により滅ざれて不義の報を受ん 彼等ハ白晝も酒食を樂とす汚なり

瑕なり爾曹と共に冠屨を興ると其議論を樂とせり かれら自ら淫婦を充し罪を犯して止す心の堅らざる

る者を感はし其心貪婪に慣これ罰るべき子輩なり かもら正道を離れて迷入バゴロの子バラムの道に

從へりバラムハ不義の利を貪りし者なり 彼の不法の爲に賣らる語ること能ざる驢馬人の聲をなし

て預言者の狂を禁たり 此輩ハ水なき井なり狂風お逐るゝ雲なり黑暗かれらの爲お窮なく存れり 乃

ハ彼等ハ誇たる虚誕を語り肉慾と淫亂を以て夫の迷へる者の中より幸して脱たる者を誘へた也 また

彼等ハ之に自由を予ると稱れども自ら瀆亡の奴僕たり蓋かたるゝ者ハ彼等の奴僕たれ也 彼等も我

儕の主なる救主イエスキリストを識に因て世の逆を服れ復これお累れて勝るゝ時ハ其後の状態ハ前お愈

りて更に惡かるべし 三 かれら義の道を識て尙るの傳られし所の聖 命を棄んより寧ろ義の道を識ざる

を美とすべし 夫かへり來りて其吐出る物を食ひ家もら以深られて復泥の中お臥と云る諷り具わして彼

等に應へり

愛する者よ我今この第二書を爾曹に筆贈る此兩書を以て爾曹ハ眞實なる心を賜し 先に聖預

言者の語りし言と爾曹の使徒等ハ傳へし主なる救主の命令を記憶せんとす 又つ首に此事を知べし未

日まらバ獻禮者いで來り已は慈に從ひて行み 主は約束し給ひし其臨る何處に在や列祖ハ獲じより以來

すべての物開闢は然と變ること無と云ん 彼等ハ神の言を由て上古天あり地れ水より出かつ水に由て立

之に由て古の世水に淹れて滅たる事を知を欲せず 爾神ハ其言を以て今の天と地を善へ之を火にて

焚ん爲に神を敬えざる人を審判する論亡日まで存せり 愛する者よ爾曹ては一事を知ざる可らず主に

於てハ一日ハ千年の如く千年ハ一日れ如し 主の約束し給ひし所を成お違ひし或人の通しと意んが如

新約全書

ハ我心小適ふ我が愛子なりと曰ふ此時かれハ神なる父より尊と譽を蒙たり われら彼と偕ハ聖山にお在し

暗この天より出し聲を聞り 殊ハ預言者の確言れらわ在ての言ハ暗處に輝る燈の如きものなり夜の明

るまで明星の爾曹の心の中お出るまで之を顧みバ 善き事ハ聖書の諸の預言ハ預言者おの

れの意を以て示せるに非ざるを知んてと也 二ハ預言ハ善より人意小由て出しに非ず神に屬する聖人聖

靈に感じて語りし者おられた也

ハ昔し民の中お僞の預言者ありき其ごとく爾曹の中お僞の師いでん彼等ハ瀆亡に至る異端を傳

へ且おのれを贖ふ主を主とせすとして速かなる瀆亡を自ら取べし また多の人かれらの好色に效はん眞道

これお由て謗論を受ん かれら貪婪心に由て造言を設け爾曹より利を取んてす彼等の刑罰ハ昔より定め

れを違からし彼等の瀆亡ハ罪す 神に罪を犯し天倒を答さず之を地獄に投られ之を幽穴に置これ

を禁錮彼等をして審判の時を待しめ給へり また古世を答さず洪水を以て神を敬えざる世を滅ぼし只義

道を傳ふるノアの一家人を救へり 又ツトムとイモラの邑を滅さんど定め之を發て旅となし後の神を

敬えざる者の鹽どかし だが義きトト即ち惡者の淫亂の行を恒に愛しし者を救へり この義人かれらの

中にをり日々その不法の行を見解して己の義き心を傷たり 此の如く神を敬ふ者を患難より救ひ不義な

る者を審判の日まで守りて之を罰し 別て汚たる情慾に徇ひ肉の慾を行ひ主たる者を戮する者を罰す

る事を知給ふなり此輩ハ臍木く自放なる者にして尊者を誹ることとを畏ざるなり 天使ハ彼等に愈し大

なる權威と能力を有て主の前お此尊者を誹て訴ることとを爲す 彼等ハ執れて殺さるゝ爲に生れたる無知

識の如し知ざる所の事を誹り其邪曲により滅ざれて不義の報を受ん 彼等ハ白晝も酒食を樂とす汚なり

瑕なり爾曹と共に冠屨を興ると其議論を樂とせり かれら自ら淫婦を充し罪を犯して止す心の堅らざる

る者を感はし其心貪婪に慣これ罰るべき子輩なり かもら正道を離れて迷入バゴロの子バラムの道に

從へりバラムハ不義の利を貪りし者なり 彼の不法の爲に賣らる語ること能ざる驢馬人の聲をなし

て預言者の狂を禁たり 此輩ハ水なき井なり狂風お逐るゝ雲なり黑暗かれらの爲お窮なく存れり 乃

ハ彼等ハ誇たる虚誕を語り肉慾と淫亂を以て夫の迷へる者の中より幸して脱たる者を誘へた也 また

彼等ハ之に自由を予ると稱れども自ら瀆亡の奴僕たり蓋かたるゝ者ハ彼等の奴僕たれ也 彼等も我

儕の主なる救主イエスキリストを識に因て世の逆を服れ復これお累れて勝るゝ時ハ其後の状態ハ前お愈

りて更に惡かるべし 三 かれら義の道を識て尙るの傳られし所の聖 命を棄んより寧ろ義の道を識ざる

を美とすべし 夫かへり來りて其吐出る物を食ひ家もら以深られて復泥の中お臥と云る諷り具わして彼

等に應へり

愛する者よ我今この第二書を爾曹に筆贈る此兩書を以て爾曹ハ眞實なる心を賜し 先に聖預

言者の語りし言と爾曹の使徒等ハ傳へし主なる救主の命令を記憶せんとす 又つ首に此事を知べし未

日まらバ獻禮者いで來り已は慈に從ひて行み 主は約束し給ひし其臨る何處に在や列祖ハ獲じより以來

すべての物開闢は然と變ること無と云ん 彼等ハ神の言を由て上古天あり地れ水より出かつ水に由て立

之に由て古の世水に淹れて滅たる事を知を欲せず 爾神ハ其言を以て今の天と地を善へ之を火にて

焚ん爲に神を敬えざる人を審判する論亡日まで存せり 愛する者よ爾曹ては一事を知ざる可らず主に

於てハ一日ハ千年の如く千年ハ一日れ如し 主の約束し給ひし所を成お違ひし或人の通しと意んが如

新約全書

ても爾曹が於ても眞實なり蓋し其暗昧なり過て眞の光耀なり光に居て其兄弟を憎む者なり今な
 は暗に居たり兄弟を愛する者其光に居て已を贖かすもの其裏になし兄弟を憎む者暗にを暗に
 行て其往てを知らず是の目を暗に眩するれば也小子よ我の書を爾曹に書よけるハ爾曹主の名に
 總て罪を赦されたるに因父老よ我の書を爾曹にかき書よけるハ爾曹元始よりの者を識るに由る壯者よ我
 の書を爾曹に書よけるハ爾曹に勝るに由る孺子よ我の書を爾曹に書よけるハ爾曹父を識るに因
 父老よ我の書を爾曹に贈しハ爾曹始よりの者を識るに因てなり壯者よ我の書を爾曹に贈しハ爾曹
 剛健かつ神の道なちの心に存て惡者に勝るに因てなりこの世あるは此世にある物を愛する勿れ
 人よし此世を愛せば父を愛するの幾りの裏に在る凡る世に在るもの即ち肉體の欲眼目の慾また勢より
 起る驕傲これら皆父より出るに非ず世より出るもの也この世に其慾を越へしもの神の旨を行ふ
 者ハ永遠存るなり○孺子よ今乃ち季世キリストに敵する者來らんと爾曹が聞し所の如く今すでにキ
 リストに敵する者多し是に出て今乃ち季の世なるを我儕ハ知り我儕を離れて彼等出たりと雖も素よ
 り我儕の屬ならざる也もし我儕の屬ならんに恒ハ我儕と俗なるべし彼等いで去る衆の者の惡くハ我
 儕の屬ならざることを顯さん爲かり爾曹ハ既に聖主より膏を沃れて一切の事を知れ爾曹の眞理
 を識ざるに因て此書を筆あくるに非ず爾曹眞理を識り凡の識ハ眞理より出ざることを識るを以てなり
 誰か是識者イエスを言てキリストとせざる者からずや父と子とを拒む者即ちキリストに敵する者
 なり凡る子を拒む者ハ父をも有する者ハ父をも有りなから始り聞る者ハ爾曹の裏に居し
 むべし若始り聞る者かちの裏に居る爾曹ハ子と父とに居んこれ主の我儕に約束し給へる約束す

カ 聖三十三 聖三十三
 目 約一〇九八 聖三十三
 八 聖三十三 聖三十三
 九 聖三十三 聖三十三
 十 聖三十三 聖三十三
 十一 聖三十三 聖三十三
 十二 聖三十三 聖三十三
 十三 聖三十三 聖三十三
 十四 聖三十三 聖三十三
 十五 聖三十三 聖三十三
 十六 聖三十三 聖三十三
 十七 聖三十三 聖三十三
 十八 聖三十三 聖三十三
 十九 聖三十三 聖三十三
 二十 聖三十三 聖三十三
 二十一 聖三十三 聖三十三
 二十二 聖三十三 聖三十三
 二十三 聖三十三 聖三十三
 二十四 聖三十三 聖三十三
 二十五 聖三十三 聖三十三
 二十六 聖三十三 聖三十三
 二十七 聖三十三 聖三十三
 二十八 聖三十三 聖三十三
 二十九 聖三十三 聖三十三
 三十 聖三十三 聖三十三
 三十一 聖三十三 聖三十三
 三十二 聖三十三 聖三十三
 三十三 聖三十三 聖三十三
 三十四 聖三十三 聖三十三
 三十五 聖三十三 聖三十三
 三十六 聖三十三 聖三十三
 三十七 聖三十三 聖三十三
 三十八 聖三十三 聖三十三
 三十九 聖三十三 聖三十三
 四十 聖三十三 聖三十三
 四十一 聖三十三 聖三十三
 四十二 聖三十三 聖三十三
 四十三 聖三十三 聖三十三
 四十四 聖三十三 聖三十三
 四十五 聖三十三 聖三十三
 四十六 聖三十三 聖三十三
 四十七 聖三十三 聖三十三
 四十八 聖三十三 聖三十三
 四十九 聖三十三 聖三十三
 五十 聖三十三 聖三十三
 五十一 聖三十三 聖三十三
 五十二 聖三十三 聖三十三
 五十三 聖三十三 聖三十三
 五十四 聖三十三 聖三十三
 五十五 聖三十三 聖三十三
 五十六 聖三十三 聖三十三
 五十七 聖三十三 聖三十三
 五十八 聖三十三 聖三十三
 五十九 聖三十三 聖三十三
 六十 聖三十三 聖三十三
 六十一 聖三十三 聖三十三
 六十二 聖三十三 聖三十三
 六十三 聖三十三 聖三十三
 六十四 聖三十三 聖三十三
 六十五 聖三十三 聖三十三
 六十六 聖三十三 聖三十三
 六十七 聖三十三 聖三十三
 六十八 聖三十三 聖三十三
 六十九 聖三十三 聖三十三
 七十 聖三十三 聖三十三
 七十一 聖三十三 聖三十三
 七十二 聖三十三 聖三十三
 七十三 聖三十三 聖三十三
 七十四 聖三十三 聖三十三
 七十五 聖三十三 聖三十三
 七十六 聖三十三 聖三十三
 七十七 聖三十三 聖三十三
 七十八 聖三十三 聖三十三
 七十九 聖三十三 聖三十三
 八十 聖三十三 聖三十三
 八十一 聖三十三 聖三十三
 八十二 聖三十三 聖三十三
 八十三 聖三十三 聖三十三
 八十四 聖三十三 聖三十三
 八十五 聖三十三 聖三十三
 八十六 聖三十三 聖三十三
 八十七 聖三十三 聖三十三
 八十八 聖三十三 聖三十三
 八十九 聖三十三 聖三十三
 九十 聖三十三 聖三十三
 九十一 聖三十三 聖三十三
 九十二 聖三十三 聖三十三
 九十三 聖三十三 聖三十三
 九十四 聖三十三 聖三十三
 九十五 聖三十三 聖三十三
 九十六 聖三十三 聖三十三
 九十七 聖三十三 聖三十三
 九十八 聖三十三 聖三十三
 九十九 聖三十三 聖三十三
 一百 聖三十三 聖三十三

かち爾曹ハ生命なり われ爾曹を誨する者に却て此等の事を爾曹に書贈れり 爾曹ハ主より沃れたる膏
 の裏に存れるが故に教を人より受るに及ばず其膏すべての事を爾曹に教ふ且眞實にして虚假なり爾曹
 膏の教る如く恒ハ主に居べし 小子よ恒ハ主に居べし其眞理時ハ我儕懼ることなく其降臨期に其前ハ耻
 ること莫らん爲なり 爾曹ハ主に公義を知らず公義を行ふ者の皆主の生どてあるを亦云也
 なんぢら爾曹を我儕稱られて神の子たることを得てこれ父の我儕ハ爾曹何等の愛乎世ハ父を識るは是
 か由て我儕をも識る也 愛する者よ我儕の愛する神の子なり 後いかに未だ隠れず其現れたる時にハ必ず神に
 背んことを知るハ我儕の眞状を見れば也 凡る神に由る此望を懐く者ハ其深が如く自己を潔す
 罪を犯す者ハ律法を犯す罪とハ即ち律法を犯すこと也 我儕は罪を除かんと爲す主の現れ給ひてどハ
 爾曹の知るところなり 彼また自ら罪を犯し 凡る彼ハ居るハ罪を犯さず 凡る罪を犯す者ハ未だ彼を見ず未だ
 彼を識ざる也 小子よ人に誨するに勿れ義を行ふ者ハ義人なり 即ち主の義あるが如し 罪を犯す者
 ハ惡魔より出り 惡魔ハ始より罪を犯せばなり 神の子の惡するハ惡魔の工を興たんと爲なり 凡る神ハ
 由て生るる者ハ罪を犯さず 蓋神の種々の裏に有る因かれば亦罪を犯すこと能はず 蓋神ハ由て生るれば也
 是ハ由て神の子と惡魔の子とハ明かある者ハ其兄弟を愛せざる者ハ皆神より出し 非ず
 我儕の互ハ相愛すべきハ爾曹の始より聞し所の命令あり 小子よ 我儕は勿れ彼ハかの惡者より出
 して其弟を殺せし何故これ殺せし 己の行し所ハ惡く 弟の行し所ハ義かりし 因わが兄弟ハ世
 になちらるを憎むも 隠くこと勿れ 彼ら兄弟を愛するに因す 以て死を出て生て入してを自ら去る 兄
 弟を愛せざる者ハ死の中ハ居 凡る兄弟を憎む者ハ即ち人を殺す者なり 凡る人を殺す者ハ窮なく生命

カ 聖三十三 聖三十三
 目 約一〇九八 聖三十三
 八 聖三十三 聖三十三
 九 聖三十三 聖三十三
 十 聖三十三 聖三十三
 十一 聖三十三 聖三十三
 十二 聖三十三 聖三十三
 十三 聖三十三 聖三十三
 十四 聖三十三 聖三十三
 十五 聖三十三 聖三十三
 十六 聖三十三 聖三十三
 十七 聖三十三 聖三十三
 十八 聖三十三 聖三十三
 十九 聖三十三 聖三十三
 二十 聖三十三 聖三十三
 二十一 聖三十三 聖三十三
 二十二 聖三十三 聖三十三
 二十三 聖三十三 聖三十三
 二十四 聖三十三 聖三十三
 二十五 聖三十三 聖三十三
 二十六 聖三十三 聖三十三
 二十七 聖三十三 聖三十三
 二十八 聖三十三 聖三十三
 二十九 聖三十三 聖三十三
 三十 聖三十三 聖三十三
 三十一 聖三十三 聖三十三
 三十二 聖三十三 聖三十三
 三十三 聖三十三 聖三十三
 三十四 聖三十三 聖三十三
 三十五 聖三十三 聖三十三
 三十六 聖三十三 聖三十三
 三十七 聖三十三 聖三十三
 三十八 聖三十三 聖三十三
 三十九 聖三十三 聖三十三
 四十 聖三十三 聖三十三
 四十一 聖三十三 聖三十三
 四十二 聖三十三 聖三十三
 四十三 聖三十三 聖三十三
 四十四 聖三十三 聖三十三
 四十五 聖三十三 聖三十三
 四十六 聖三十三 聖三十三
 四十七 聖三十三 聖三十三
 四十八 聖三十三 聖三十三
 四十九 聖三十三 聖三十三
 五十 聖三十三 聖三十三
 五十一 聖三十三 聖三十三
 五十二 聖三十三 聖三十三
 五十三 聖三十三 聖三十三
 五十四 聖三十三 聖三十三
 五十五 聖三十三 聖三十三
 五十六 聖三十三 聖三十三
 五十七 聖三十三 聖三十三
 五十八 聖三十三 聖三十三
 五十九 聖三十三 聖三十三
 六十 聖三十三 聖三十三
 六十一 聖三十三 聖三十三
 六十二 聖三十三 聖三十三
 六十三 聖三十三 聖三十三
 六十四 聖三十三 聖三十三
 六十五 聖三十三 聖三十三
 六十六 聖三十三 聖三十三
 六十七 聖三十三 聖三十三
 六十八 聖三十三 聖三十三
 六十九 聖三十三 聖三十三
 七十 聖三十三 聖三十三
 七十一 聖三十三 聖三十三
 七十二 聖三十三 聖三十三
 七十三 聖三十三 聖三十三
 七十四 聖三十三 聖三十三
 七十五 聖三十三 聖三十三
 七十六 聖三十三 聖三十三
 七十七 聖三十三 聖三十三
 七十八 聖三十三 聖三十三
 七十九 聖三十三 聖三十三
 八十 聖三十三 聖三十三
 八十一 聖三十三 聖三十三
 八十二 聖三十三 聖三十三
 八十三 聖三十三 聖三十三
 八十四 聖三十三 聖三十三
 八十五 聖三十三 聖三十三
 八十六 聖三十三 聖三十三
 八十七 聖三十三 聖三十三
 八十八 聖三十三 聖三十三
 八十九 聖三十三 聖三十三
 九十 聖三十三 聖三十三
 九十一 聖三十三 聖三十三
 九十二 聖三十三 聖三十三
 九十三 聖三十三 聖三十三
 九十四 聖三十三 聖三十三
 九十五 聖三十三 聖三十三
 九十六 聖三十三 聖三十三
 九十七 聖三十三 聖三十三
 九十八 聖三十三 聖三十三
 九十九 聖三十三 聖三十三
 一百 聖三十三 聖三十三

の衷を存せよと此の爾曹の知るところ也。主の我儕の爲に生を捐たば、是に由て愛といふ事を知たり。我儕そだ兄弟の爲を本生を捐べし。世の寶財をもち兄弟の饑乏を見て、反て萬地の心を閉る者、何で神を愛するの愛の、衷を存んや。小子よ、我儕愛するを、言と舌とを以て相愛する事、亦く行と實とを以てすべし。是れ由て我儕眞理より出じ、我儕心を知つ。我儕心を主の前安んずべし。我儕が心も、我儕を責む神、我儕が心より大なるに、より凡れ事を、知給はざるな。我儕が心、みづから責むること、無心神、何て憚る所なかるべし。且、われらが、凡て求る所、彼より受ら、其誠を守りて、其機が、給ふ所を行へ。心也。この誠、ハ即ち我儕神の子、イエスキリスト、凡れ名を、信じて、彼の我儕に、命ぜし、如く、互に相愛すること也。神、我儕を守る者、ハ神を、亦かれ、居られ、其賜ふ所、我儕、由て、即ち、其れらに、居給ふこととを、知り愛する者、凡れ、我儕を、信する、勿れ、その靈、神より、出るや、否を、試むべし。多の、僞預言者、いで、く世に入り、凡ろ、イエスキリスト、の、肉體、と、ありて、臨り、給ることを、認む、神より、出、これ、お由て、神、我儕、を、知べし。らんとする事、ハ爾曹、が、聞る所、なり、今、す、お世、亦、居り、小子よ、爾曹、ハ、神より、出、また、彼等、亦、勝、ことを、得たり。蓋、なん、ち、ら、の、衷、亦、居、れば、ハ、世、其、を、る者、より、大、なる、お、因、て、なり。彼等、ハ、世、より、出、し、者、な、れ、バ、其、い、ふ、所、も、世、より、出、し、者、其、言、を、き、事、お、して、世、人、ハ、之、に、聽、り、我儕、ハ、神、より、出、た、り、神、を、認、も、ば、我儕、亦、き、く、神、より、出、ざる者、ハ、我儕、に、聽、す、是、れ、お、由て、眞理、の、靈、と、迷、誤、れ、靈、と、を、知、なり。○愛、する者、よ、我儕、互、に、相、愛、す、べし。愛、ハ、神、より、出、れ、心、也。是、れ、よ、う、愛、お、る者、ハ、神、亦、由、て、生、れ、且、神、を、認、る、なり。愛、な、き者、ハ、神、を、認、ま、ず、ハ、即、ち、愛、な、れ、バ、也。神、ハ、その、生、給、へ、る、標、子、を、世、に、置、は、し、我儕、を、し、て、彼、に、由、て、生、を、得、し、む、お、由、て、神、の、愛、お、れ、ら、に、歸、れ、

十節 〇六十五〇三
十一節 〇六十五〇三
十二節 〇六十五〇三
十三節 〇六十五〇三
十四節 〇六十五〇三
十五節 〇六十五〇三
十六節 〇六十五〇三
十七節 〇六十五〇三
十八節 〇六十五〇三
十九節 〇六十五〇三
二十節 〇六十五〇三
二十一節 〇六十五〇三
二十二節 〇六十五〇三
二十三節 〇六十五〇三
二十四節 〇六十五〇三
二十五節 〇六十五〇三
二十六節 〇六十五〇三
二十七節 〇六十五〇三
二十八節 〇六十五〇三
二十九節 〇六十五〇三
三十節 〇六十五〇三
三十一節 〇六十五〇三
三十二節 〇六十五〇三
三十三節 〇六十五〇三
三十四節 〇六十五〇三
三十五節 〇六十五〇三
三十六節 〇六十五〇三
三十七節 〇六十五〇三
三十八節 〇六十五〇三
三十九節 〇六十五〇三
四十節 〇六十五〇三
四十一節 〇六十五〇三
四十二節 〇六十五〇三
四十三節 〇六十五〇三
四十四節 〇六十五〇三
四十五節 〇六十五〇三
四十六節 〇六十五〇三
四十七節 〇六十五〇三
四十八節 〇六十五〇三
四十九節 〇六十五〇三
五十節 〇六十五〇三

たり。われら神を愛するお非ず。神われらを愛し我儕の罪、我儕が其子をして、挽回せ、祭物とせり。是れ、すな、ち、愛、する者、よ、此、の、如、く、神、われ、ら、を、愛、し、給、へ、ん。我儕、亦、た、が、互、に、相、愛、す、べし。未、だ、神、を、見、し、者、な、し、我儕、亦、互、に、相、愛、せ、ん。神、われ、ら、の、衷、に、居、て、彼、を、愛、する、愛、を、我儕、の、衷、に、完、全、す。か、を、己、に、其、靈、を、も、て、我儕、に、賜、ふ。是、れ、お、由、て、我儕、彼、に、居、かれ、の、我儕、に、居、こ、う、を、知、ら、ん。父、義、に、其、子、を、遣、し、て、世、に、救、主、と、爲、り、我儕、す、べ、に、之、を、見、たり。今、この、證、を、作、なり。凡ろ、イエスキリスト、を、神、の、子、なり、と、認、ま、ず、者、ハ、神、か、れ、に、居、か、れ、神、亦、居、る。我儕、の、爲、に、神、の、有、る、愛、を、我儕、す、て、お、知、て、信、す。神、ハ、即、ち、愛、な、り。凡ろ、愛、に、を、る者、ハ、神、に、を、り、神、亦、た、彼、に、居、る。此、の、如、く、我儕、の、愛、を、全、備、を、得、て、勸、日、に、懼、な、から、し、む。蓋、主、の、如、く、我儕、世、に、在、ら、ん。愛、の、中、に、懼、お、る、こと、な、し、空、に、愛、の、懼、を、除、く。ハ、懼、ハ、善、を、有、り、凡ろ、懼、る、く、者、ハ、愛、を、全、備、せ、ざる也。われ、ら、神、を、愛、する、ハ、彼、ま、づ、我儕、を、愛、する、に、因、り。○我儕、ハ、神、を、愛、す、と、言、て、其、兄、弟、を、憐、む、者、ハ、是、れ、誑、者、なり。既、に、見、よ、こ、う、の、兄、弟、を、愛、せ、ず、し、て、未、だ、見、ざる神、を、何、で、愛、せ、ん。神、を、愛、する者、ハ、亦、り、の、兄、弟、を、も、愛、す、べし。此、の、誠、ハ、我儕、彼、より、授、け、ら、れ、た、り。凡ろ、イエスキリスト、を、キリスト、と、信、する者、ハ、神、に、由、て、生、れ、た、る也。是、れ、よ、う、之、を、生、者、を、愛、する者、ハ、亦、ろ、の、生、る、と、所、の、者、を、も、愛、する也。我儕、亦、も、神、を、愛、し、て、其、誠、を、守、ら、ば、此、に、由、て、我儕、神、の、兒、女、を、愛、する、と、知、神、の、誠、を、守、る、ハ、是、れ、す、な、ち、神、を、愛、する也。○の、誠、ハ、難、から、す。凡ろ、神、に、由、て、生、る、く、者、ハ、世、に、勝、我儕、を、し、て、世、に、勝、た、し、む、る者、ハ、我儕、が、信、なり。誰、か、能、世、に、勝、ん、イエスキリスト、を、神、の、子、と、信、する者、に、劣、り、や。○神、の、子、ハ、水、と、血、を、も、て、臨、る、即、ち、イエスキリスト、なり。唯、水、の、み、な、ら、ず、水、に、ま、た、血、を、兼、て、我儕、を、爲、す者、ハ、靈、亦、な、り。眞、實、な、れ、ど、也。證、を、作、る、ハ、三、す、な、ち、水、と、血、と、の、三、の、者、の、歸、する、所、ハ、一、なり。我儕、亦、も、し、人、の、證、を、受、る、時、ハ、神、の、證、ハ、更、に、大、なる、べし。神、の、證、ハ、此、な、り。即、ち、其、子、の、爲、に、作、る、證、なり。神、の、子、を、信、する者、ハ、其、衷、に、此、證、を、

一節 〇六十五〇三
二節 〇六十五〇三
三節 〇六十五〇三
四節 〇六十五〇三
五節 〇六十五〇三
六節 〇六十五〇三
七節 〇六十五〇三
八節 〇六十五〇三
九節 〇六十五〇三
十節 〇六十五〇三
十一節 〇六十五〇三
十二節 〇六十五〇三
十三節 〇六十五〇三
十四節 〇六十五〇三
十五節 〇六十五〇三
十六節 〇六十五〇三
十七節 〇六十五〇三
十八節 〇六十五〇三
十九節 〇六十五〇三
二十節 〇六十五〇三
二十一節 〇六十五〇三
二十二節 〇六十五〇三
二十三節 〇六十五〇三
二十四節 〇六十五〇三
二十五節 〇六十五〇三
二十六節 〇六十五〇三
二十七節 〇六十五〇三
二十八節 〇六十五〇三
二十九節 〇六十五〇三
三十節 〇六十五〇三
三十一節 〇六十五〇三
三十二節 〇六十五〇三
三十三節 〇六十五〇三
三十四節 〇六十五〇三
三十五節 〇六十五〇三
三十六節 〇六十五〇三
三十七節 〇六十五〇三
三十八節 〇六十五〇三
三十九節 〇六十五〇三
四十節 〇六十五〇三
四十一節 〇六十五〇三
四十二節 〇六十五〇三
四十三節 〇六十五〇三
四十四節 〇六十五〇三
四十五節 〇六十五〇三
四十六節 〇六十五〇三
四十七節 〇六十五〇三
四十八節 〇六十五〇三
四十九節 〇六十五〇三
五十節 〇六十五〇三